



THE ROSETTA STONE BLOG NEWS 2021.6.4

この春に、熊本ホテルキャッスル人事異動により、食堂部長に就任した岩本憲治氏（48歳）。一言で、若手社員を牽引する機関車のような人物である。礼節を弁え、言ったこと、言われたことをとことん実行する、有言実行型の信頼できる人物として、二十数年間、大変お世話になっている。（筆者が初めて同ホテルへ行った時、同氏は8歳だったことになる）

幼少期に剣道で鍛えられた為か、ホテルエとしての立ち姿、歩く姿の「線」が美しい。スレンダーだが、可成りの高馬力。時にはジョークを織り交ぜたトークに、若いスタッフが含み笑いするほど。周囲の信頼も厚く、ホテルを牽引するヒューマンウェアとして重要な存在となっている。

同氏が「若い頃でしたが、何度も厳しく叱られたことを良く覚えています。」と語った。正直、記憶は薄らと消え掛かっていたが、確かに、厳しく言及した覚えはある。ただ、同氏はしっかりと筋を通す人間であり、小言で社員を叱責したり、嫌がらせをするような姑息な小物ではない。

正々堂々と筋論を述べ、大局的に物事を見据え、与えられた業務を最善のパワーで、実績を積み重ねて来ている。よって、今回の人事異動にて、二階級特進したのだろうと推察する次第。コロナ禍による大変な時期だが、このような人物が居なければ、ホテル全体の統率が取れるはずがない。

今の同ホテルはコロナ禍と雖も、実に明るい空気が充満している。その要因については、筆者なりに十二分に知り得ているけれども、何はともあれ、コロナ禍を耐え凌ぐためには、このような部長級以下のスタッフの存在とその満面の笑みが、好循環への鍵となることを知る必要がある。

最後に・・・ホテルとは、ヒューマンウェア、ソフトウェア、ハードウェアの三位一体を確立してこそ、そのホテルの将来が安泰になると言っても過言ではない。

